

ダリアの加温電照栽培における省エネ効果の高い暖房方法

山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室

研究のねらい

本県の主力花きであるダリアについて、庄内地域では越冬するハウス加温電照栽培が中心であり、加温にかかる灯油消費量の削減が課題であることから、変温管理による削減技術を開発する。

研究の成果

- ① 暖房機の加温設定温度を 14～18 時に 15℃、18～14 時に 8℃とする変温管理(日没前後昇温処理)は、10℃一定加温(終日一定加温)と比べて、年間の灯油消費量を 2～3 割程度削減できる(図 1、図 2)。
- ② 日没前後昇温処理を行った切り花の商品本数は、終日一定加温と同等である(図 3)。
- ③ 日没前後昇温処理を行った切り花は、切り花長がやや短くなる傾向が見られるが、商品花として十分な品質を確保できる(表 1)。
- ④ 「ミッチャン」や「ムーンワルツ」等、低温による花色変化や露心花が発生しにくい品種に実施する(図 4)。

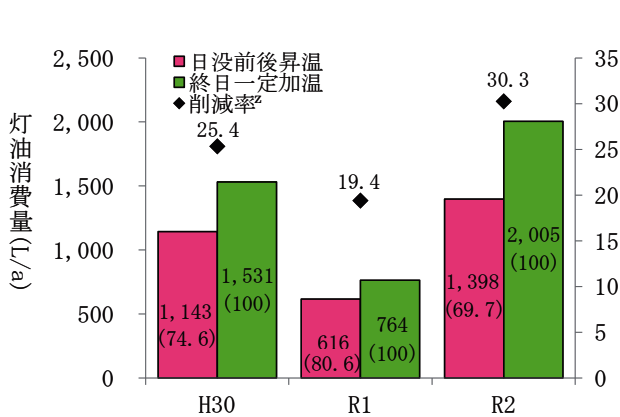


図 1 灯油消費量と削減率

* (終日一定加温 - 日没前後昇温) / 終日一定加温 \times 100

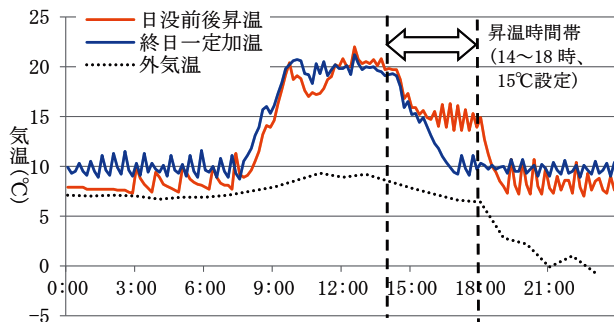


図 2 気温の推移

※晴天日 R2 年 12 月 9 日

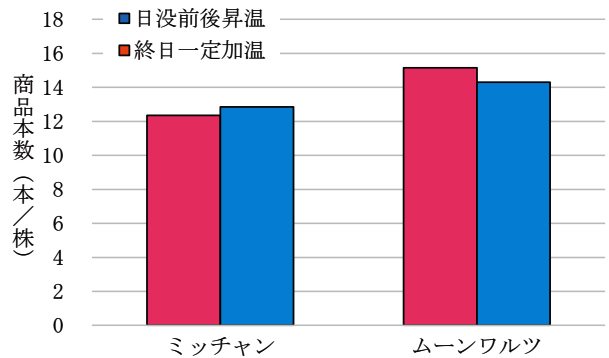


図 3 暖房期間中(12～4月)の商品本数(R2)



図 4 「ミッチャン」(左)と「ムーンワルツ」(右)

表 1 暖房期間中(12～4月)の切り花品質(R2)

品種	加温方法	切り	花径	60cm	60cm
		花長	(mm)	調製重	茎径
		(cm)		(g)	(mm)
ミッチャン	日没前後昇温	104	102	74	11.1
	終日一定加温	112	105	82	11.1
ムーンワルツ	日没前後昇温	96	161	68	9.8
	終日一定加温	97	156	70	9.8

問い合わせ先：園芸研究担当 TEL:0234-91-1250 e-mail:yshonaisanchi@pref.yamagata.jp